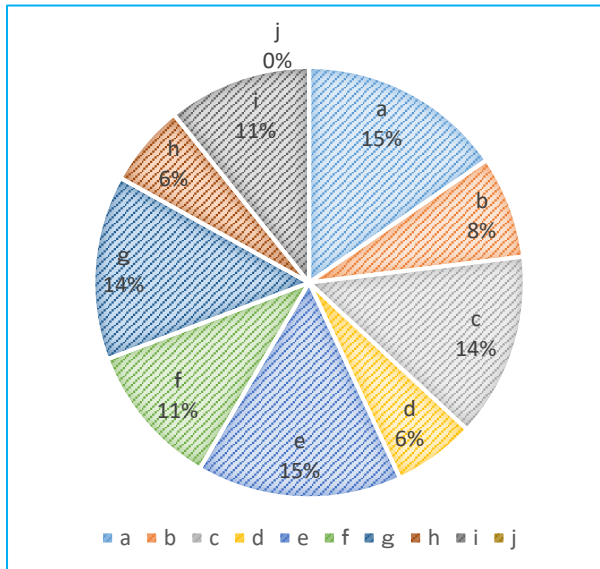


第17回 大学教育問題全学講演会
「次期カリキュラムについて」
アンケート集計結果 (2023.4.20)

参加者 190名

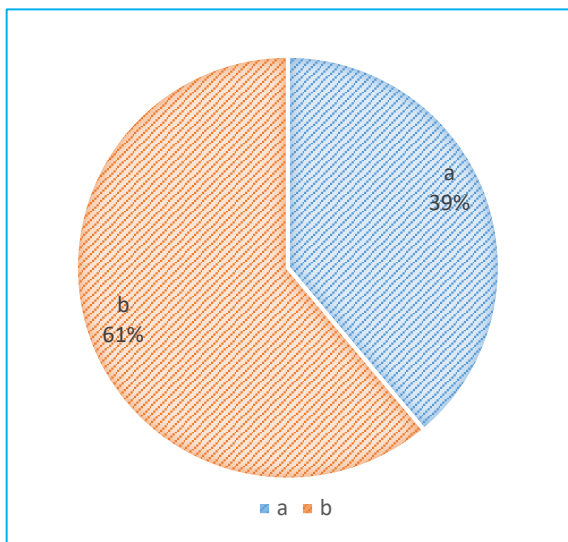
1. 先生の所属を教えてください。



- a.法学部
- b.経済学部
- c.経営学部
- d.現代中国学部
- e.国際コミュニケーション学部
- f.文学部
- g.地域政策学部
- h.短期大学部
- i.事務職員
- j.上記以外

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	計
10	5	9	4	10	7	9	4	7	0	65

2. さしつかえなければ、ご担当されている科目（区分）を教えてください。

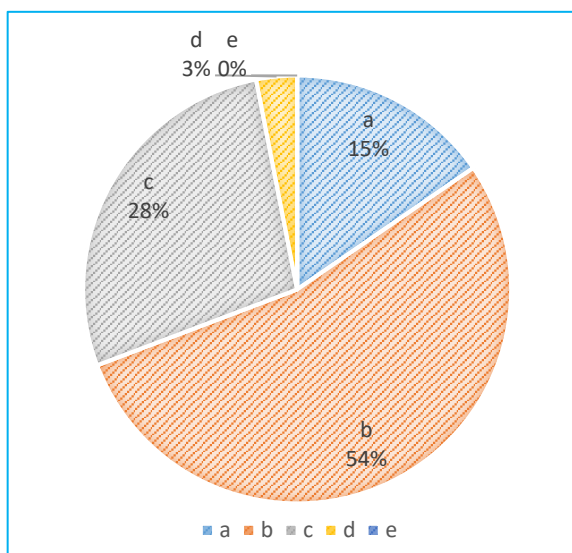


- a.共通教育科目
- b.専門教育科目

※両方選択されているケースもあり

a	b	計
28	44	72

3. 次期カリキュラムの方針についてご理解いただけましたか。



- a.よく理解できた
- b.理解できた
- c.どちらとも言えない
- d.あまり理解できなかった
- e.理解できなかった

a	b	c	d	e	計
10	35	18	2	0	65

●「a.よく理解できた」と答えた人のコメント

- ◇ 副学長のご提案に大賛成します。
- ◇ 方針などきちんと説明してくれたから
- ◇ 良くまとまっていたと思います。
- ◇ 学部長ですと何回もお伺いできていることもありますが、中尾先生のお考えは、基本的に腑に落ちることが多いです。
- ◇ 副学長のお考えがよく伝わったと思います。
- ◇ 未修外国語科目を担当しています。1単位から2単位にすると伺い、外国語の科目数が減るのかと思っていましたが、そうではないことや、なぜ2単位にしようになったのかという経緯が分かりました。
- ◇ 学務委員会に出席しているので。
- ◇ 一つ一つのスライドについて丁寧に説明いただけました。

●「b.理解できた」と答えた人のコメント

- ◇ 普通に聞いていたので普通に理解できた。
- ◇ 学生の主体性を重視したカリキュラム方針には賛成です。学生には単位取得や時間割を優先するのではなく、自身の興味・関心を深めて欲しいと思います。
- ◇ すべてわかったわけではないが、主旨および一部具体的な事例について紹介いただけた。
- ◇ 学修者本位の教育という方向性に強く共感したから。
- ◇ 学務委員会委員なので、内容については事前に何回か聞いているため。
- ◇ 予め資料の配付があったため分かりやすかった。
- ◇ 顔を出し目つご自身の言葉で説明くださったので、資料から読み取りにくいニュアンスを含めて理解につながったと思います。
- ◇ 「単位の実質化」を中心に据えてカリキュラムを構築することが明らかになり、2025 カリキュラムの骨子を共有することができたため。
- ◇ 学修者本位の教育実現に向けた次期カリキュラムの本学の方針が良く分かりました。将来、全国的に大学運営が厳しい中で、サーティフィケートパッケージや2単位化などいくつか挙げられた対応策は、幾つかの課題はあるものの、これ以外ないのではないかと思うような提案でした。ただ、愛大の特色をどこにもたせるのか。この点が明確でなかったように思います。建学の精神をもう一度見つめなおし、愛大の特色が学部ごとに色付けられるよう柔軟に対応できるよう願います。

- ◇ 学生主体のカリキュラムと学習環境作りは大切ではあるが、実際に各学部の学生が具体的にいかなる学習上の課題を抱えているかが明確ではないですし、共通してはいないと思われるので、まずは、現状の問題を再検証したうえで問題提起されることが、全学の教員を納得させる早道かと思います。各学部の専門教育に問題がないのであれば、全学共通教育から大きく変更することで既存の付加価値を破壊しな方が得策です。学生主体の学びを作るのであれば、授業を体系的に改善する必要があります。個人的には、愛大のスケールメリットを生かして、もっとAIを授業に活用できるように環境整備していただきたい。そのため情報科目の教員の授業公開なども定期的にやってほしい。
- ◇ 現在の大学が置かれている厳しい環境において、本学も何かをやらなければならない、学生が主体となって学ぶ教育への転換が必要であることを差し迫ってこれまでずっと考えてこられたであろうと思われ、同僚への配慮も軽んぜずに、分かりやすい言葉で趣旨をお聞きすることができました。一筋縄でいかない問題でしょうが、未来の愛知大学のために事を成し遂げたいとする先生の強い責任感を感じることができました。
- ◇ 別の会議でも説明を受けていましたので、理解できました。今回、丁寧に説明いただいたと思います。
- ◇ 了承できない部分もあるが、「理解」はできたという意味で「理解できた」を選択した
- ◇ 基本方針についておおまかに理解できた。
- ◇ 未定の部分も多いため、「適度に」理解したと感じられた。

●「c.どちらとも言えない」と答えた人のコメント

- ◇ 短大所属で学部の共通教育科目の実情がよく理解できていないため、今回の改革の方向性がイメージしづらかったです（特にサーバケについて）。
- ◇ 量から質へという転換を促すという点。
本学の学生（わたしの経済学部）は本来的に「学習時間」が圧倒的に少ない。それは授業評価アンケートからあきらかであり、この趨勢は全く変わっていない。大学の授業は「学習・勉強時間」があってはじめて「質」への転換を促す。たとえば事前学習・事後学習がゼロでやってきても、「理解力」はあがらない。もともとの「量」をどういふに確保していくのか、そこをしっかりと固める必要があるのではないかと。「量」がない状態から「質」への転換はできない。
- ◇ あえて聞くような話ではない
- ◇ 入学時にカリキュラムを理解していない学生に学生主体の教育にするのは、学生に下駄を預ける印象があります。学生はコストパフォーマンスを考えるとところもあると思いますし、学習目標到達は、個人によってその学習に必要な時間は異なるはずなので、あまり学生主体にするのは大学のレベル維持を考えるとちょっと難しいように感じました。
- ◇ 個別の対応ばかりで、目指す全体像が全くつかめなかった。
- ◇ 特に単位数の考え方について、様々な意見や質問が出ており、議論を尽くす必要があると思いました。
- ◇ 語学科目を2単位化する必要性があまりよく理解できませんでした
- ◇ 「語学科目の単位倍増」以外の「量から質への教育」の転換方策についても検討し、当該目的達成のために最も妥当なカリキュラムのあり方を探求する必要もあるのではないのでしょうか？
- ◇ スローガンやポリシーはわかるのだが、具体的に何をどうすればいいのかが、見えない。
- ◇ 副学長が訴えてらっしゃる内容は理解できましたが、説明の中に自分の理解が及ばない箇所がありました。
- ◇ 実質的にあまり良い結果は生まない（と少なくとも私個人は思っています）
必修外国語の2単位化になぜそこまでこだわるのかが分かりません。
- ◇ 学生の学びの主体性を重視するという考え方が明確であったという意味で理解できるが、カリキュラムへの落とし込みにはうまくはまっていらないように思えるため。
- ◇ 非常に難しい議論だと感じた。変化自体を否定するものではないし、いくつかのアイデアで肯けるものもあったが、カリキュラムの全体を見回した時に、あちらを立てるとこちらが立たず・・・といったジレンマに陥るケースが多いように見受けられた。
- ◇ 配布資料やご説明いただいた次期カリキュラムの方針と、その実現のためにスライドで提示されていたテクニカルなお話のつながりが今ひとつ把握できなかった。そのため、語学の取り扱いをどうするかというお話に聞こえた。リベラルアーツ科目群に関して、より具体的にどの科目がどの科目群に該当するのか詳細な説明もいただきたかった。

- ◇ カリキュラムに対する考え方が今までとは大きく異なるように感じたので、具体的にどうなっていくのかがイメージできないで状態です。
- ◇ 特に共通教育の次期カリキュラムについて「具体的な科目名」が例示されておらず、イメージをつかみにくい。

●「d.あまり理解できなかった」と答えた人のコメント

- ◇ 英語の2単位化が必要なのか分からない。英語を2単位化するのであれば、語学の科目数も減らすことが必要ではないでしょうか。
- ◇ サーフイケーション、データサイエンス等々、自分の専門とはほとんど関係のない専門的な言葉が多すぎて、ついていけません。教学委員会等で議論すれば済む話ではないかと思いました。

4. 次期カリキュラムに関して質問や疑問点があれば記入してください。

- ◇ 特になし。
- ◇ 感想になります。多くの教員のお考えは現状からどう変わるかに意見が集約できると思います。他方で中尾副学長のお考えは、教員サイドではなく学生サイドの視点からのお考えだと受け取りました。
- ◇ 上記（設問3の回答）と同じ。
（量から質へという転換を促すという点。本学の学生（わたしの経済学部）は本来的に「学習時間」が圧倒的に少ない。それは授業評価アンケートからあきらかであり、この趨勢は全く変わっていない。大学の授業は「学習・勉強時間」があってはじめて「質」への転換を促す。たとえば事前学習・事後学習がゼロでやってきても、「理解力」はあがらない。もとの「量」をどういふうに確保していくのか、そこをしっかりと固める必要があるのではない。「量」がない状態から「質」への転換はできない。）
- ◇ 質問が壮大すぎてここでは回答できません。学部での議論を積み上げて、少なくとも、専門教育科目についてはきちんと検証しようと思っています。
- ◇ 語学2単位になると1年次に取れる専門科目が減るので、「1年次から専門科目を多く学べる」という入試広報上の売りが無くなるのではないかと心配です。
- ◇ 総合科目の展開は、学内教員の特徴を活用した有意義な科目だと思いますが、こちらの位置付けはどのようになるのでしょうか。
- ◇ 多くの先生から疑問視されていましたが、外国語科目の2単位化は、CAP制のために専門科目の履修の選択余裕を狭めてしまい、逆に学生に余裕をなくしてしまいます。学部ごとに語学科目の必修条件を決められるなら、いいのですが。
- ◇ 具体的な変更点は、共通教育科目（リベラルアーツ）関係が多くなるように思いますので、その調整が円滑に進む（のは一筋縄ではないことは重々承知の上で）ことを願います。よろしく願いいたします。
- ◇ 現時点では、特にありません。
- ◇ どこまでが決まったことで、どこから要請なのかははっきりさせて欲しい。
- ◇ 2単位化にともなう、ある程度抜本的な改革には、ちょっと検討時間が不足するかもしれませんね。
- ◇ 成績優秀学生の履修上限単位数を増やした場合に、多く授業を受講できるというメリット以外にGPS（合計ポイント）でも評価されるような制度がないと利用されない可能性があるが、その辺りは検討されているか？
- ◇ 各科目の中身は学部の独自性があっても良いと思いますが、語学、共通（リベラルアーツ）、専門別の卒業要件は、学部の共通性があつた方が良く考えます。
- ◇ 特にありません。
- ◇ 個別質問に係る専門教育科目との調整（特に初年次）について十分検討する必要があると感じました。
- ◇ オープンバッジを利用する場合、かかる費用はどれくらいなのでしょう。
- ◇ サーフイケイト・パッケージは卒業生の能力の証明として世間から認知されるだろうか？
- ◇ 自由度のある教員の新規枠確保を是非お願いしたい。

- ◇ 必修科目(卒業のために必要な科目だから、2単位にせざとも学生は必ず履修する)をなぜ2単位化せねばならないのか、そこがやはり疑問です。確かに、語学は予習、復習の時間は他の科目と比べて長くなりがちです。が、1単位が予習30分、復習30分、2単位が予習2時間、復習2時間と指定する文科省の方針そのものがそもそもおかしいのではないか、と思うのですが、いかがですか。なぜ、1単位科目の予習が1時間、復習1時間ではないのでしょうか。ご意見されている先生もおられました。必修を2単位化することで、学生の専門科目や他の一般教育科目を履修する意欲が削がれること(配置されている科目数は変わらないが、学生の履修科目数が減る)自体は語学教員は皆、避けたいと思っています。また、学生に主体的に選んでもらう、とおっしゃりましたが、現状、語学科目の必修科目は、英語のプレイスメントテストの結果および未修の外国語の履修希望に応じて、自動的に振り分けがなされる状態です。
また、未修の外国語は、第一希望が通らず第三希望で配置されている学生もいます。
この現状を、どうやって学生が「主体的」に選んだと感ぜられるものにしていこうと考えられているのでしょうか。副学長自身の構想をいただけないと、分科会からアイデアを上げて下さいと言われても、なかなか難しいと考えます。ぜひ副学長の、具体的な構想をお聞きたいです。
- ◇ 質疑でも出ていましたが、教職課程への影響の問題は重要です。共通教育科目の再編成や科目名変更によって、教職課程の再申請や教職課程関連科目の再審査(教員資格審査を含む)が必要になるでしょう。拡大学務委員会には教職課程の責任者は出席していなかったと思われませんが、教職課程の担当者会議や担当事務職員にも意見を聞く必要があると思います。
- ◇ 学外体育実技の再開を希望していますが、体育教員だけではマンパワーの点で難しいと感じている次第です。再開を目指して、体育分野担当のいない学部、に体育担当の専任教員を増やしてほしいところです。
- ◇ サーフティケート制度を充実させ、専門に特化しない幅広い教養を身につけたことを担保する制度を構築し(例えば、文系科目中心である本学において、数学系の教養を身につけたことを保証する)、幅広い教養を身につけさせることを目指す一方で、語学の単位を必修単位数を変更せずに、個々の科目の単位数を倍にするため、自由選択科目の取得科目数を減らさざるを得ない状況が生まれることとなります。つまり、サーフティケートの充実(=教養知を高める)と2単位化(=語学の強化(語学の強化は意図していないとしても、必修単位数が変わらない以上、結局は強化につながります))の2つのベクトルが相反しているような気がしています。「単位の実質化」に基づき、語学の単位数を2単位にするのなら、むしろ語学の必修科目数を少なくし、そのぶん語学の「選択科目」をサーフティケートと紐づけ、サーフティケート発行の要件として、語学を組み入れることを考えたほうが実質的ではないでしょうか。そうしますと、学生が受講する語学の授業数は維持できると思われます。また、グローバル化の観点から、サーフティケートの要件に語学を組み入れることは、説明がつく話だと思われます。
- ◇ 上記(設問3の回答)と同じ。
(実質的にあまり良い結果は生まない(と少なくとも私個人は思っています)必修外国語の2単位化になぜそこまでこだわるのかが分かりません。)
- ◇ サーパケとして、数学重視入学者、AI・データサイエンスだけが例に上がっているのはなぜでしょうか。見直した方が良いと思います。もう少し幅広い先生方の意見を反映させた方が良いと思いました。残念ですが、本学の学生の興味とも乖離しているように思います。こういったこともできるというオプション的位置づけぐらいでしょうか。
- ◇ 理念の部分では理解できるが、単位化の話になると専門教育科目、語学等の共通教育科目のバランスが取れず、その理念の実現と必ずしもリンクしているように思えない。
- ◇ 正解のない問いへの取り組みに近い感触だった。「もっとよりよいカリキュラムを作りたい」という思いを持つ方はそれぞれ多いと思う。それは喜ばしいことであるが、一方で多種多様なアイデアを統合して一本化し、実現化させるとなると、そのハードルはかなり高い気が…。この春学期を目処に各学部で議論して形を、と仰っていたが、本当に達成できるのかどうか？
そもそも、カリキュラムの構造が各学部それぞれ単独で成り立つのではなく、学部間を横切る共通科目群とも複雑に交差しているため、意思決定や細部のすり合わせはどのようになされる見込みなのか、アイデアが乱立した場合に誰が最終判断をするのか、非常に気になった。

- ◇ 全部を理解できたとは思いませんので、時間があるときに再度、録画を見返したり、資料を読み返したりしたいと思います。
- ◇ リベラルアーツ科目群に関してはその分類名称の抽象度が高いような気がします。今後、名称を改めて検討するような機会はあるのでしょうか？個人的な意見として、文系総合大学の特性を生かし、「キャリア」や「自分自身」ではなく、「経済・ビジネス」、「法律・行政・政治」といったより一般的な分類名称の方が、学生が将来学びたい分野や進みたいキャリアに必要な基礎的科目のイメージがつきやすいと思います。
- ◇ 質問ではなく、感想です。
 サークパスに似たようなことは、他大学でも導入されているし、愛知大学でも「日本文化理解」について似たようなことを構想した（実施した？）ように記憶している。気を付けるべきことは、新カリキュラムやサーパスを打ち上げ花火的な華々しい売りにしようと思わないことだと思う。「数学で入った学生が入学後に数学をさらに学べるのもよいのではないか」という考えが一例として紹介されたが、あまりよい考え方ではないと思える。なぜなら、この考え方は、愛知大学のアイデンティティーとの関連性を踏まえて出てきた考えではないと私には思えるからである。
 経済学部で数学の入試科目を認めた時の本質は、「経済学を勉強するには実は数学ができたほうがよい」ということよりも（そもそも、学部の専門教員は「数学といっても必要なのは中3までの数学」と言ってはばからない）、「大学には文理問わず広くいろいろな基層を持った学生が集まる方が、学生たち同士も知的刺激になる」ということであった。確かに、学生たちにとって人文社会科学系大学に入学した後、理系分野を学ぶことは悪いことではない。大学は、特定の専門に特化した科目しか提供しない専門学校とは違うのだから、その点から考えれば、広くさまざまな分野の科目を用意することは望ましい。しかし、その点に拘泥しすぎると、大学はカルチャーセンターに近づいていく（カルチャーセンターでは、何をやってもよく、総じて世間受けしそうなものを並べのが常である）。カルチャーセンターよりもレベルの高いことをやるのだとなると、経営学部の教員が危惧していたことが起こる。
 大学のカリキュラムは、専門学校的なものになってもいけないし、カルチャーセンター的なものになってもいけない。DPとの関連を意識して議論を進めないといけないと思うが、そうなるのだろうか？新カリキュラムやサーパスの議論の行方が不安である。
- ◇ 次期カリキュラムのサティフィケート制度と現行のさくら21のサティフィケート制度との関係がどうなっているのかよくわからなかった。
- ◇ 他大学の事例を、科目群名や具体的な科目名などを例示して示してほしい。
 とくに共通教育の一般分野は外部の非常勤講師に多くの科目を担当いただいており、彼らが納得できるような具体的かつ丁寧な説明が必要だと思う。また、非常勤講師への説明のスケジュールも示してほしい。
- ◇ サティフィケートパッケージの科目群についてさらに理解が深められるような企画があればと思いました。
- ◇ 講演は「学修者本位」の教育のために外国語2単位化で学生の負担を減らす、という内容だと理解したが、学修者本位の教育として重要なのは、1単位であろうと2単位であろうと、その分の学修成果が得られているかということだと思う。これまで2単位分の学修成果を得ていたにもかかわらず、1単位しか認定されていないのであれば、今後は2単位として認めることが妥当であるだろう。
 しかしそうであるならば、2単位化後も必修科目数が現行のままということの説明はうまくできていないのではないかと。1科目1単位のレベルで○科目必修とカリキュラムを組むことで最低限の外国語の学修を目指していたのに、現状実質的には2単位分の学修となっているのであれば、2単位化した後はその分外国語必修科目の数を減らすのが妥当なように思える。
 必修科目数データ置きであれば、（2単位分学修していたにもかかわらず）1単位しか認められなかった24年度以前の学生と比べ、25年度以降は履修科目数が減るため相対的に低い学修成果しか得られないということになるのではないかと。
- ◇ 質問・疑問ではないが、語学の開講科目数がどのように変動するか気になる場所である。